

高校生 高齢者の避難支援学ぶ

南富良野で「防災学校」

【南富良野】町独自の南富良野高などで「一日防災の日」に合わせ、「防災学校」が行われた。



今回初めての取り組みとして、地域に暮らす高齢者にも訓練に参加してもらい、高校生が避難者支援や誘導の方法を学んだ。

町は2016年の連続台風で大規模水害が発生した8月31日を「防災の日」と定めて毎年訓練を行っており、今年は29日に実施した。

大雨で空知川の水位が上昇し「高齢者等避難」が発令されたとの想定。

高校生は5、6人ずつの9班に分かれて高齢者宅に向かうと、チャイムを押して避難を呼びかけた。歩行に不安のある人には手を差し伸べたり、

高齢者の避難をサポートする南富良野高生

車いすを用意したりし、避難所に指定された同高体育館まで同行した。

生徒たちは「どんな風に声をかけたらいいだろう」と相談しながら高齢者宅へ。「段差があるから注意しよう」など声を掛け合ってお年寄りを誘導していた。同高1年の猪口真菜さん(16)は「先輩の声かけを見習って、実際に災害があったら積極的に振る舞いたい」と振り返った。

南富良野中でも防災学校が行われ、生徒らが校庭でれんがを使ってかまどを組み、当日の給食のチャプチェを温め直す体験をした。

鈴木誠教育長は「災害時に、支援を受けるだけでなく、自分たちにもできることがあることを学んで、主体的な行動につなげてもらいたい」と話した。

(川上舞)